

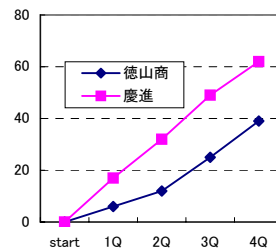
平成18年度 山口県高等学校バスケットボール新人大会兼山口県体育大会
H19年(2007年)1月19日(金)・20日(土) 周南市総合スポーツセンター

女子決勝リーグ 1月19日 9:30

徳山商 vs 慶進 6-17 6-15 13-17 14-13 39-62

Starters 1Q 2Q 3Q 4Q TOTAL
徳山商 #4 浅田 #5 松木 #8 宮本 #11 萱原 #12 田中 主審 小坂 祐三
慶進 #4 三池 #7 金光 #13 吉村 #15 角田 #18 野原 副審 荒瀬 勇

共にハーフのマンツーマン。出だし両者シュートミスが多いが、高さに勝る慶進がリバウンドを制し、4分で0-6とリード。慶進は#15と#18や#5のハイローを中心に攻める。徳山商はフリースクリーンからの3Pを打つが入らず、得点が伸びない。1Qは6-17、2Q、徳山商はミドルポストからの1対1などで攻めるが、高さのプレッシャーからシュートが中々決まらない。慶進はオフェンスリバウンドをよく取るが、#15がゴール下をよく落とす。前半を終わって12-32。後半に入り徳山商はようやく3Pが決まる。慶進も#15のリバウンドシュートがようやく決まる。徳山商は外郭のシュートが決まり始め、やや差を詰めるが、慶進も3Pが決まり始め、3Q終わって25-49。最終Q、徳山商はスクリーンを多用し粘り強く攻めるが、詰めの部分で慶進がよく読み、守り、中々得点にまでは至らない。4分で28-60。慶進はメンバーを代えながら進めていく。徳山商は3Pや速攻が決まり始め差を詰めるが、39-62で試合を終えた。(文 永尾茂則)

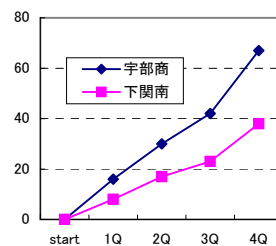


女子決勝リーグ 1月19日 11:00

宇部商 vs 下関南 16-8 14-9 12-6 25-15 67-38

Starters 1Q 2Q 3Q 4Q TOTAL
宇部商 #4 野村 #5 室重 #6 江田 #9 三奈木 #10 藤永 主審 高木 直樹
下関南 #4 八色 #5 金村 #6 中川 #10 市川 #11 藤田 副審 藤井 正則

両チームハーフのマンツーマン。南はジャンプボールからレイアップに持ち込み幸先のよいスタートを切ったかに思えたが、それをボロリ。しかし南はDEFを頑張り、インターセプトから3対2を作り出すも決めきれない。また、オフェンスリバウンドを取るもの決められず嫌な流れに。宇部商も出だしシュートが硬かったものの南のシュート率の悪さに助けられ16-8宇部商のリードで1Qを終了。2Q南は#5のカットイン、#10のゴール下や3Pで一気に追いつき、宇部商T.O。後宇部商#4の3P。これで勢いづいた宇部商はDEFを強め、速い攻めを展開する。南はピックアップミスが起こりレイジーシュートを許す。30-17宇部商リードで前半終了。後半、南はDEFを強め、OFFの運動量を増やすも、如何せんゴール下のシュートをことごとく外しリズムに乗れない。宇部商は、南のインサイド陣を外に引っ張り出し、ドライブや外角シュートで得点。42-23で4Qを迎える。最終Q、流れが変わらない南は次ゲームに標準を切り替えたかメンバーを大幅に入れ替える。最終スコア67-38と宇部商が貴重な1勝をあげた。ゲーム開始直後のレイアップミスが全てを象徴するかのようであった。(文 林 哲郎)

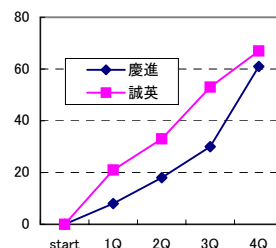


女子決勝リーグ 1月19日 12:30

慶進 vs 誠英 8-21 10-12 12-20 31-14 61-67

Starters 1Q 2Q 3Q 4Q TOTAL
慶進 #4 三池 #7 金光 #13 吉村 #15 角田 #18 野原 主審 有澤 重行
誠英 #4 前田 #5 松森 #6 大城戸 #7 岡 #13 西村 副審 中村 秀昭

1Q、両者マンツーマンでスタート。誠英#6のシュートで始まり、慶進硬さがみられシュートまでいけないう。たまたま残り8慶進T.O。4-0誠英リード。T.O後は1対1を積極的に仕掛け自分たちのバスケットをやらうとする。しかし、誠英#7のランニングプレーで得点する。残り10秒、誠英#5の3Pが決まり1Q21-8で終了。2Q、誠英5人が力強い1対1で得点を重ね、ジリジリと点差を広げる。対する慶進は1対1を仕掛けるがシュートが入らず点が取れない。前半33-18と誠英リードで終了。3Q、誠英#4、#5のシュートで得点。対する慶進は速攻、インサイドでハイローを展開してOFFを組み立てる。追いつきそうだが誠英は着実に得点を重ね、53-30と誠英リードで3Q終了。4Q、一進一退の攻防が続く。慶進#15の力強いゴール下で点差を縮める。誠英メンバーが変わり、慶進が点差をつめるがその前の点差が大きく67-61で試合終了。オフェンスの決定力の差が得点差に結びついた試合だった。(文 枝折康孝)

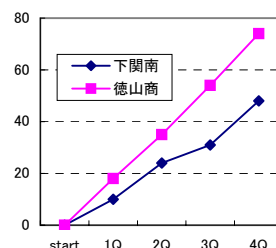


女子決勝リーグ 1月19日 14:00

下関南 vs 徳山商 10-18 14-17 7-19 17-20 48-74

Starters 1Q 2Q 3Q 4Q TOTAL
下関南 #4 八色 #5 金村 #6 中川 #10 市川 #11 藤田 主審 松本 理
徳山商 #4 浅田 #5 松木 #8 宮本 #11 萱原 #12 田中 副審 網屋 みちる

徳山商はハーフのマンツーマン、南は2-3のハーフコートゾーンでスタートする。徳山商は南のゾーンに戸惑いを見せ、外角は当たらないもののハイロープレーやオフェンスリバウンドを頑張り得点する。南は徳山商のDEFを攻めきれず、10-18の徳山商リードで終了。2Qも南はゾーンで臨む。1Qでの問題点を修正しハイポストを意識しながら、ウイングをやや上がり目にし、ショートコーナーからの逆サイドへのパスをインターセプトする。これが成功し1ゴール差までつめよる。しかし徳山商は#6の3Pで何とか息をつなぎ、24:35徳山商リードで前半を終える。後半南のゾーンに対し徳山商#11の連続3Pが炸裂し、一気にリードを広げる。対する南は3分近く無得点でたまたまT.O。DEFをマンツーマンにする。まっぴりしたとばかりに徳山商は得意のモーションオフェンスを展開し、31-54とリードを広げて最終Qへ。後がない南は、何とか反撃を試みるが徳山商のきびしいDEFを攻めきれず流れをつかめない。このままゲームオーバー。徳山商が1勝を勝ち取った。(文 林 哲郎)

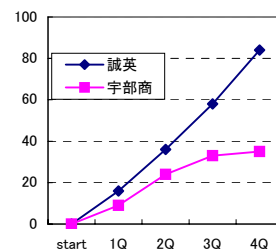


女子決勝リーグ 1月19日 15:30

誠英 vs 宇部商 16-9 20-15 22-9 26-2 84-35

Starters 1Q 2Q 3Q 4Q TOTAL
誠英 #4 前田 #5 松森 #6 大城戸 #7 岡 #13 西村 主審 山本 俊光
宇部商 #4 野村 #6 江田 #7 三宅 #9 三奈木 #10 藤永 副審 森脇 太郎

両チームとも、ハーフコートマンツーマンでスタート。互いに当たりの強いDEFで主導権を渡さない。膠着状態で16-9と誠英リードで1Q終了。2Q誠英は#5の3連続3Pを含む14得点で突き放しにかかるが、宇部商も、果敢にドライブで切り裂き、OFFリバウンドを奪い必死に追いつく。誠英36-24とリードを広げ2Q終了。後半、誠英はメンバー交代が功を奏し、粘り強いDEFで宇部商OFFにプレッシャーをかけミス誘う。しかし誠英#4が5ファールで退場するものの、#15#17の活躍で加点する。一方、宇部商は強気の攻めが空回りし、ミスが続くシュートに行くことができない。3Qは22-9と誠英が圧倒した。主導権を握った誠英は、4Qも一方的な展開で、何とかリズムを掴もうと奮闘する宇部商を2得点に抑え込んだ。結果、誠英が余裕で勝利し、2勝目を挙げた。(文 中村行範)



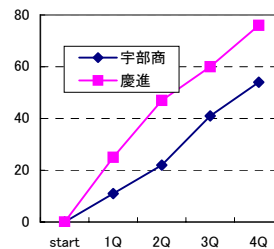
平成18年度 山口県高等学校バスケットボール新人大会兼山口県体育大会
H19年(2007年)1月19日(金)・20日(土) 宇部市徳田翁記念体育館

女子決勝リーグ 1月20日 9:00

宇部商 vs 慶進 11-25 11-22 19-13 13-16 54-76

Starters
宇部商 #4 野村 #6 江田 #7 三宅 #9 三奈木 #10 藤永 主審 奥野 忠
慶進 #4 三池 #7 金光 #13 吉村 #15 角田 #18 野原 副審 枝折 康孝

両者マンツーマンでスタート。宇部商は#4の3Pで先制するが、その後は慶進の堅い守りを攻めめぐみ得点が止まる。逆に慶進はインサイドを中心に得点を重ね、11-25と慶進リードで終了。2Q、慶進は1Q同様にインサイドを中心に攻め、DEFが奇ると外に合わせ、#9の3Pなどで確実に得点する。一方宇部商は、思うように攻撃が展開できず、リズムを作ることができない。途中、慶進もミスが続き得点の止まる時間帯もあったものの22-47と慶進リードで前半終了。3Q、慶進が途中からメンバーを入れ替えると、DEFにスキができ、そのスキについて宇部商が得点を重ねていく。慶進も#5のインサイドや#13の3Pで何とかつなぎ41-60と宇部商が少し差を詰めて終了。4Q、慶進はベンチメンバーが出場するも#8のインサイドなどで確実に得点していく。宇部商は次の徳山商戦を考えてか、終盤主力を休ませる。終始安定した試合運びの慶進が54-76で2勝目を挙げた。(文 山本俊光)

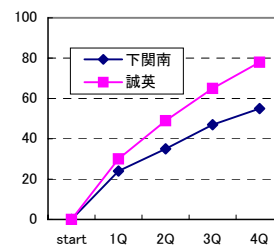


女子決勝リーグ 1月20日 10:30

下関南 vs 誠英 24-30 11-19 12-16 8-13 55-78

Starters
下関南 #4 八色 #5 金村 #6 中川 #10 市川 #11 藤田 主審 網屋 みちる
誠英 #4 前田 #5 松森 #6 大城戸 #7 岡 #13 西村 副審 荒瀬 勇

両者DEFはマンツーマン。誠英はDEFに集中力を欠き、ゴール下にオープンスペースを作られ、そこを南に衝かえり得点を許す。しかし、#5の遠距離からの3Pや#4の1対1で得点し、24対30のハイスコアで1Q終了。2Qに入っても誠英ピリツしないものの、1Q同様、個々の得点力は高く、簡単に得点。南のシュート率が下がったこともあり差を広げ、35対49で前半終了。後半も前半同様にゲームは展開。誠英は、シュート練習のようにオープンになればどンドンシュートを放つ。南はスクリーンを使い破れを作りイーージーシュートを放つも焦りから落とすことが多く、#4や#11の単発の3Pの得点のみとなる。最終Q、南は、速攻誠英の集中力のなさを衝き速攻の得点も出るが誠英の得点力はおとろえず55対78でゲームは終了。誠英の個々の能力の高さが際立った。(文 林哲郎)

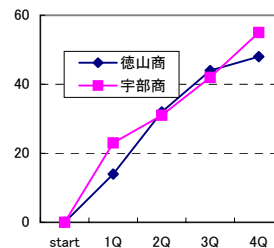


女子決勝リーグ 1月20日 12:00

徳山商 vs 宇部商 14-23 18-8 12-11 4-13 48-55

Starters
徳山商 #4 浅田 #5 松木 #8 宮本 #11 菅原 #12 田中 主審 川武 修
宇部商 #4 野村 #6 江田 #7 三宅 #9 三奈木 #10 藤永 副審 多賀谷 豊

3位を決める戦い。DEFは両チームともハーフコートマンツーマン。先手を取ったのは宇部商。#10や#6の1on1などで13-0とリードする。一方徳山商は立ち上がり動きが堅く、苦しい展開となるが、#11の3P、#8の連続得点で追い上げる。23-14、宇部商リードで1Q終了。2Q、徳山商のDEFが激しくなり、宇部商にミスが重なり流れが変わる。徳山商は#8のミドルや#10の3Pなどで28-29と追いつく。その後は一進一退の攻防で、終了直前、徳山商#4のドライブで32-31と逆転し、前半終了となる。3Q、両チームシュートが入らず膠着状態となるが、途中からは、宇部商#5のリング下、#6の1on1、徳山商#5のミドル、#8の3P、#11の合わせでお互いに得点を重ね、残り3分、40-40の同点。しかし、徳山商#8が4ファールとなりベンチへ。苦しくなるが、徳山商は#10のミドルで踏ん張り、42-40の2点リードで3Qを終了。4Qに入ると、宇部商の#6が大活躍。連続3Pと1on1で50-41と宇部商がリードを広げる。残り5分で徳山商は#8をコートに戻し、反撃を図るが、シュートが決まらない。その後も宇部商は#4のリング下、#7のドライブで加点し、結局55-48で宇部商が勝利し、中国大会への切符を手にした。(文 松村成通)

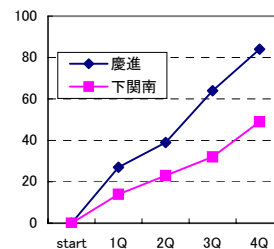


女子決勝リーグ 1月20日 13:30

慶進 vs 下関南 27-14 12-9 25-9 20-17 84-49

Starters
慶進 #4 三池 #7 金光 #13 吉村 #15 角田 #18 野原 主審 山本 俊光
下関南 #4 八色 #5 金村 #6 中川 #10 市川 #11 藤田 副審 藤田 薫

両者ハーフのマンツーマン。全敗の下関南は何か一矢を報いたいところであるが、疲れからから動きに切れがなくミスが多い。対して慶進は、長身選手を生かしたハイローの攻撃や外角も当たり得点を重ねる。下関南はミスの多い中にも#10が3Pで得点し、27対14慶進リードで1Q終了。2Q、下関南は気合を入れ直し、見違えたように足を動かす。これに慶進は戸惑い、リードを縮められるも#4の3Pなどで、39対23と慶進リードを広げて後半へ。2Q集中力が衰えたようにみえた慶進は、気持ちを切り替え3Q出だしからDEFのプレッシャーを強めスパート。下関南はベンチから選手たちを頑張らせようと必死の声援を送るもなかなか思うようにはいかず64対32ゲームをほぼ決定づけて最終Qへ。下関南気力を振り絞りゲームを展開するも、慶進の壁は高く、84対49でゲームオーバー。慶進は3勝1敗、下関南は全敗で全日程を終了した。



女子決勝リーグ 1月20日 15:00

誠英 vs 徳山商 25-12 18-16 24-14 13-5 80-47

Starters
誠英 #4 前田 #5 松森 #6 大城戸 #7 岡 #13 西村 主審 弘中 勤
徳山商 #4 浅田 #5 松木 #6 栢 #8 宮本 #10 山本 副審 石原 大資

共にハーフのマンツーマンDEF。誠英は1対1を中心に攻める。対する徳山商は速いパス回しから#5の3Pやミドルシュートが決まり、6分で12-8。しかし、疲れから外郭のシュートが落ち、リバウンドも取れず、点差が開き1Qを25-12の誠英リードで終了。2Q、徳山商は積極的にゴールに向かう。誠英ファールがかさみ、4分で5ファール。得点は29-19。誠英は徹底して1対1で攻める。#15吉武が能力の高さを見せ、得点していく。前半を43-28で終わる。後半に入り、徳山商は連戦の疲れからか、やや足が止まる。誠英はメンバーを代えながらも、1対1からの合わせなども決まり、67-42で3Q終了。4Q、誠英は、#15に1対1をやらせる。素晴らしい能力を見せてくれ、80-47で試合終了。誠英は、今大会を通じて徹底して1対1を重点に置いた試合展開であったように思う。(文 永尾茂則)

